

## ノ征稿《要高高兴兴地学习》

我是在中国东北的一个贫穷农村出生的，在中国度过了40多年的时光。由于妻子是遗孤，因此，昭和63年3月，我随妻子来到了日本。同年9月，进了一家制药公司工作。

对日本人来说，谁都可以张口就来的日语，对于我，却似一道高墙。因为不会，才要学习，这个道理我还是懂的。进公司一段时间以后，有一次在选购新型机械的说明会上，我的上司说，“MU先生不会说日语，所以不用参加了。”可是，新型机械刚一进来，却又对我说，“MU先生，请你来操作。”当时听到这句话时，我的脑子嗡地一声全乱了套，可是之后便浮现出两个字——“努力”。我将机械的每一个部件名称、操作顺序、注意事项等，一个字、一个字地从中文到日文记下、背熟，并慢慢地习惯操作，有时候机械要是发出怪声，我甚至能够通过声音就判断出是哪儿出了毛病，因此，我也得到了一定程度上的肯定。

其实，不懂日语这件事丝毫不丢人。我觉得，自己不懂日语，却又不愿意学习眼前那些必要的日语，才是一件丢人的事情。所以，我在名古屋的日语学习班，辗转着学习。老天爷很公平，为每一个人的一天都安排24个小时，因此，是否能够有效地利用这些时间，就看我们每一个人自己了。我感到，学习日语最重要的是，应该尽可能地增加与日本人的沟通机会，因此，我去上了两年的初中夜校。那之后，在公司里，我终于可以做翻译专业性资料之类的工作了。

在我看来，日本这个国家，只要能有一份工作，就不会饿肚子。所以，找工作的手段，只能靠日语。

## ノ投稿『勉強は楽しんで!』

わたし　ちゅうごくとうほくちほう　まづ　いな　か  
私は、中國東北地方の貧しい田舎で  
う　ねんあま　す  
生まれました。中国で40年余り過ごしま  
したが、妻が残　留　孤児なので、昭和63年  
がつ　にほん　き　どうねん　せい  
3月に日本にきました。同年9月にある製  
やくがいしゃ　つと  
薬会社に勤めました。

じん　だれ　はな　ご  
日本人だったら誰でも話せる日本語が、  
そそうたかい　は　ど　る  
私にとっては相当高いハードルでした。勉  
で　き  
強というのは出来ないからすることで、ある  
ていど　かく　こ　にゆうしや  
程度覚悟はしていました。入　社　してしば  
らくしてからのことですが、新　しい機械を  
のうにゆう　まえ　せつめいかい　じょうし  
納　入　する前の説明会に、上　司　から「MU  
さん　さん　か  
さんは日本語ができないから参加しなくて  
もいいよ」と言われ、機械が入った途端、「M  
Uさんが操作してください」と言われまし  
た。聞いた瞬　間　、頭　の中　がパニック状  
たい　あと　う　ど  
態になりましたが、後で浮かんだのは、「努  
りよく　ふた　も　じ　ぱー　つ　な　まえ  
力」の二文字でした。機械パートの名前、  
て　じゅん　ちゅう　い　じ　こう　ひと  
操作手順、注意事項などを一文字ずつ中  
あほ　しごと　だん  
国語と日本語で覚えました。また、仕事も段  
だんな　あ　か　おと　な　ど　こ  
々慣れ、機械から可笑しい音が鳴ると何処  
と　ら　ふる　はっせい  
にトラブルが発生したかもわかるようにな  
ひょう　か  
って、ある程度評　価　されました。

実際、日本語ができないことは少しも恥  
ずかしいことではありませんが、目の前の  
わ　し　じ　ぶん  
分からない日本語を知ろうともしない自分  
ほんとう　な　ご　や　し  
が本当に恥ずかしいと思って、名古屋市  
きょうしつ　てんてん  
にある日本語教室を転々としながら勉強  
かみさま　ひょうどう　いち  
しました。神様は誰に対しても平等に一  
にち　じ　かん　あ　た　ゆう　こ　う　つか  
日24時間と与えています。有効に使える  
しだい  
かどうかは自分次第で、できるだけ日本人  
こ　み　ゆ　に　け　一　し　ょ　ん　か　い　す　う　ふ  
とのコミュニケーションの回数を増やすの  
だ　い　じ　に　ね　ん　か　ん　や　か　ん　ち　ゅ　う  
が大事なことだとわかり、二年間夜間中

回顾来日本这许多年，因为难学而使人烦恼的，是日语；因为懂了而趣味横生的，也是日语。我感到不抓紧时间学习，实在太可惜，同时也有负于老天爷。再说，这儿是日本，要是不会说日语的话，万一发生什么事情，犯难的最终还是自个儿。

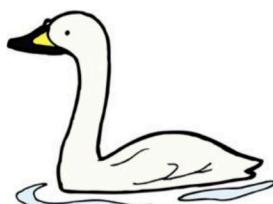
如今，我在工作之余，也参与一些医疗翻译方面的义务活动，其间有无数我不曾了解的日语。比如，在医院给人当翻译的时候，要是碰倒难懂的单词，我便立刻记下来，拿回家以后，通过电脑进行整理。现在，这已经变成了我的乐趣之一。

我渴望继续努力，在自己的有生之年，能为他人多做一些事情，多尽一份气力。

**我喜欢的一句话：湖上的天鹅，看似悠闲自在，然而水面下的腿却拼命划水。**

MU

2009年6月26日



学校へ通い、会社で専門分野の翻訳の仕事をできるようになりました。

私は言わせれば、日本という國は仕事さえあれば生活に困らない國です。仕事に就く手段は日本語しかありません。

振り返って見ると、難しくて嫌になるのが日本語だし、分かると面白くなるのも日本語でした。今のうち勉強しないと勿体無いし、神様に失礼だと思います。そして、ここは日本ですから、日本語ができないと、「いざ」という時に困るのは自分だと思います。

今、私は仕事をしながら医療通訳のボランティア活動にも参加しています。できない日本語は山ほどあります。病院で通訳する時、理解し難い単語に出会ったら即座にメモ用紙に書き、家に帰ってコンピューターに整理しておくのも、もう一つの楽しみです。

なんとか頑張って、元気なうちに、みんなの力になりたいです。

すきなことば：「湖に浮かぶ白鳥はスイと自然に浮かんでいるように見えますが、水面下では必死で水搔きをしています。」

MU

2009年6月26日